

昭和四十四年

日本思想史関係研究文献要目

凡 例

- 一、本要目には、昭和四十四年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。
- 一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。
- 一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。
 - ⅠⅡ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道德教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。
- 単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。
- 一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。
- 一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時日の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備の点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総 雑

日本文化史研究

日本文化小史

日本文化論

シンポジウム日本と東洋文化

照葉樹林文化

—日本文化の深層—

禅と日本文化の諸問題

日本勤労教育思想史

日本における社会と宗教

比較宗教学

—東洋および日本の宗教思想—

日本宗教交渉史論

日本仏教史入門

仏教の日本的受容

密教の歴史

仏教歌謡の研究

招魂社成立史の研究

庚申信仰の研究

肥後先生古稀記念論文刊行会編 弘文堂

村井康彦 学芸書林

石田英一郎 筑摩書房

上山春平 新潮社

梅原猛 中央公論社

荻須純道 平楽寺書店

小林澄兄 玉川大学出版部

笠原一男 吉川弘文館

塩田紀和 くらしを出版

原田敏明 中央公論社

田村芳郎 角川書店

藺田香勲 百華苑

松長有慶 法蔵館

武石彰夫 桜楓社

小沼健三 錦正社

窪徳忠 勤草書房

庚申信仰

古 代

日本古代の精神

—神々の祭展と没落—

飛鳥仏教史研究

古代山岳信仰の史的考察

日本古代文芸における恋愛

—その本質と展開—

日本古代天皇制の研究

中 世

日本浄土教史の研究

歎異抄

仏教文学研究7・8

日本の隠者

近 世

近世日本思想史研究

江戸時代の女たち

—封建社会に生きた女性の精神生活—

江戸時代の科学

義理と人情

日本近世近代仏教史の研究

キリシタン

—史実と美術—

平野 実 角川書店

横田 健一 講談社

田村 円澄 角川書店

高瀬 重雄 清水弘文堂書房

青木 生子 法律文化社

石尾 芳久 平楽寺書店

藤島 達郎 平楽寺書店

宮崎 円遵 宝文館出版

梅原 真隆 蔵書房

仏教文学研究会編 蔵書房

桜井 好郎 蔵書房

平重 道 吉川弘文館

柴 桂子 評論新社

東京科学博物館編 名著刊行会

源了 円 中央公論社

柏原 祐泉 平楽寺書店

松田 毅一 淡交社

松田 毅一 淡交社

踏 絵

— 禁教の歴史 —

江戸時代庶民教化政策の研究

近 代

明治思想の形成

日本思想史の遺産

河合栄治郎全集8

明治思想史の一断面

資本主義形成期の秩序意識

福沢諭吉論考

日本のマルクス主義者

明治文化とニコライ

森有礼の思想

教育勅語の思想

歴史教育の歴史

明治の仏教者下

新渡戸稲造研究

新渡戸稲造

宗教法人法の基礎的研究

日本の近代社会と天理教

近代宗教文芸の研究

天皇制国家と政治思想

村野常右衛門伝

民権家時代

片岡 弥吉 日本放送出版協会

山下 武校 倉書房

本山 幸彦 福村出版

鈴木 正 ミネルヴァ書房

河合 栄治郎 社会思想社

鹿野 政直 筑摩書房

伊藤 正雄 吉川弘文館

鈴木 正編 風媒社

牛丸 康夫 教文館

坂元 盛秋 時事通信社

牧野 宇一郎 明治図書出版

海後 宗臣 東京大学出版会

常光 浩然 春秋社

東京女子大学新編 渡戸稲造研究会 春秋社

松 隈 俊子 みすず書房

井上 恵行 第一書房

小栗 純子 評論社

小田 良弼 明治書院

松本 三之介 未來社

村野 廉一 中央公論事業出版

色川 大吉 版

民権思想と転向

講座日本の革命思想4
明治国家への反逆

日本アナキズム労働運動史

幸徳秋水

— 直接行動論の源流 —

北一輝

戦時下抵抗の記録2

— キリスト者・自由主義の場合 —

近代日本経済思想史1

近代日本の社会思想

しまね きよし 紀伊国屋書店

小山仁示編 芳賀書店

萩原 晋太郎 現代思潮社

飛鳥井 雅道 中央公論社

長谷川 義記 紀伊国屋書店

同志社大学人文科学研究所編 みすず書房

長谷川 幸男 有斐閣

住谷 一彦 社会新報社

高島 通敏 社会新報社

II 雑誌・紀要論文目録

総 雑

禅と日本文化

日英比較文化試論

— ことわざを中心として —

日本人の精神構造

— 恩意識及び恩に基づく行動の分析を通して —

日本人の歴史観

仏教と日本文学の接点への一考察

密教図像にみえる観想上の結果

— 仏教図像学上のパターンの諸問題・序説 —

真鍋 俊照 南都仏教 一三三

白土 わか 大谷学報 四八一三

和歌森 太郎 国文学(学燈社) 一四一一二

長島 貞夫 東京教育大学教育学部紀要 一五

福富 護 育学部紀要 一五

奥津 文夫 和洋女子大学英文学会誌 七

両界曼荼羅の美術

佐和隆 研 日本美術工芸 三七一

大日如来像の展開

〃 〃 仏教芸術 七三

祖先神の歴史的意義

下出積 与 駿台史学 二四

道祖神考

本位田 重美 人文論究(関西学院大)二〇一

両部マンダラの系譜

松長 有慶 宗教文化 八七

マンダラ思想背景

干瀉 龍祥 〃 〃

伊勢神宮と仏教

萩原 龍夫 明治大学人文科学研究所紀要七

我が国の住生思想について

佐々木 徹真 真宗研究 一四

排仏意識の原点

高取 正男 史 窓 二七

山中他界観の成立と展開

桜井 富太郎 日本歴史二四九

道陸神の影

大久間 喜一郎 国学院雑誌 七〇—一〇

浄土真宗とキリスト教との比較

岡 邦俊 相愛女子大学研究論集 一六一

研究 — 神観と救済観とを中心として —

河 波 昌 浄土宗学研究三

浄土教における歴史哲学的考察

— 法蔵菩薩神話における根源的歴史性的問題 —

修験道における宗教儀礼の構造

宮 家 準 哲学(三田哲学会)五四

十三仏信仰の史的展開

川 勝 政太郎 大手前女子大学論集 三

大和の庶民信仰史研究

金子野 友治 天理大学学報 二〇—一

伊藤 房和 二〇—一

甲州郡内地方の神道

深山 忠六 神道学 六三

日本禅の特色

柳田 聖山 禅学研究 五七

禅における宗教と文化の関係

西村 恵信 〃 〃

「転」の宗教と「幽」の文化の相即

荒井 貢次郎 印度学仏教学研究 一八一—

庚申禁忌と罰の二重構造

酒井 三郎 立正史学 三三

— 法民俗学的方法に立って —

文化史的方法についての考察

— 西田直二郎氏の所説についての疑問 —

石田 一良編「日本文化史概論」

池田昭著

今泉 淑夫 日本歴史二五六

「日本の精神構造論序説」

沼 義明 日本仏教 二九

— 民俗における文化接触の問題 —

桜井徳太郎「神仏交渉史研究

— 益田勝実著「火山列島の思想」

佐々木 宏幹 民族学研究 三三一—

— 日本宗教史研究会編「日本宗教史研究 I 組織と伝道

平野 仁啓 日本文学 一八一—

II 布教者と民衆との対話」

古田 武彦 史林 五一—六

Christmas Humphreys; Zen, A Way of Life 1965

柴田 道賢 宗教学論集 二

高野山金剛峯寺所蔵「中尊寺経」

原田 隆吉 図書館学研究報 一

— 仮目録 —

古代日本思想の構造

上代日本人の論理

田中 元 工学院大学研究論叢 七

上代日本人の論理

石井 庄司 東海大学紀要(文学部) 一二

— あるアプローチ —

万葉人(びと)の心

大浜 巖比古 上代文学 二五 天理大学学報(人文学会誌) 二〇—二

わが国における帰化人文化の痕跡
上・下 | 斎藤 忠 日本歴史 二五一・二五二

藤原三代の歴史と文化 高橋 富雄 仏教芸術 七二

源氏物語の倫理思想 | 二 | 重松 信弘 国文学研究(梅光女学院大) 四
— 罪の意識を中心として —

古代の死霊観念と埴輪 田中 日佐夫 風俗 八一四

呪禁師(ずごんのし)の性格 岩佐 貫三 印度学仏教学研究 一八一—
— 仏教渡来時の日本の実態とそのとらえかた —

上代における文化受容形態に関する一視点 | 仏教を中心とする | 長谷部 好一 愛知学院大学論叢(一般教育研究) 一七一—

沮渠氏と仏教について 小田 義久 龍谷史壇 六〇

古代日本の宗教的情操 | 一・二 | 菅原 昭英 史学雑誌 七八—二・三
— 記紀風土記の夢の説話から —

日本古代貴族社会における地蔵信仰の展開 速水 侑 北海道大学文学部紀要 一七一—

飛鳥・奈良時代における浄土観 奈良 弘元 精神科学 八

奈良時代の密教における諸問題 三崎 良周 南都仏教 二二

光仁・桓武朝の政治姿勢とその対仏情緒 池田 源太 龍谷大学論集 三八九・三九〇

最登と密教思想 岡村 圭真 密教文化 八九

「顕戒論」に現われた批判精神 | 二 | 仲尾 俊博 密教 学 六

伝教大師に及ぼした不空三蔵の影響 木内 央 印度学仏教学研究 一八一—

天台口伝法門と密教 大久保 良順 印度学仏教学研究 一八一—

弘法大師の諸開題等に散見する釈論の思想 小田 慈舟 密教文化 八六

真言密教における三却思想について 加藤 精一 印度学仏教学研究 一八一—

恵心僧都と四明知礼 | 下 | 安藤 俊雄 仏教学セミナ | 九
— 趙宋期における日中天台の交流 —

恵心僧都における円戒と念仏 小寺 文穎 龍谷大学仏教文化研究所紀要 八

源信撰の「往生十念」について 石田 瑞麿 金沢文庫研究 一五—七

「往生要集」における仏教的機根理解とその思想についての一考察 早坂 博 東北福祉大学論叢 八

神道原始 柴田 実 人文(京大教養部) 一五

埴使考 真弓 常忠 神道史研究 一七一—
— 天香山と畝火山をめぐる古代氏族の動向と祭祀権 —

中臣祓訓解の成立時期について 伴 五十嗣郎 神道史研究 一七一—

埋経と往生思想 奥村 秀雄 Museum 111111
— 朝熊山経塚出土の線刻阿弥陀三尊来迎鏡像をめぐる —

神話の真实性と非歴史性 波多野 鹿之助 文化学年報 一八

日本神話の性格とその基盤 大久間 喜一郎 文学・語学 五〇

大和王朝の成立と神話の発生 古田 正隆 神道学 六二

天孫大倭国降臨説 菟田 俊彦 神道学 六二

日本建国神話の構想 三品 彰英 神道史研究 一七一—四

記紀神話形成と大化前代の祭祀制 | トモ制から官司制へ | 本位田 菊士 歴史学研究 三四九

聖徳太子と天皇権確立の理想 佐藤直助 上智史学 一四
憲法一七条と維摩経義疏との関 望月一憲 印度学仏教学研究 一八一—一

日本古代国家の仏教統制 二葉憲香 竜谷大学仏教文化研究所紀要八
—僧綱自律性の検討—
国分寺成立考 平岡定海 大手前女子大学論集 二
—最勝王経の受容と天平一三年三月二〇日の詔について—

「帝紀の原形と記紀」〔平田俊春「国語と国文学」昭和四一年四月号掲載〕について 梅沢伊勢三 日本歴史二五五
—記紀と帝紀との関係について平田氏の批判に答える—

帝紀の原形と記紀再論 平田俊春 日本歴史二五八
—梅沢氏の反論〔本誌昭和四四年八月号〕を駁する—
古事記再発見への前提 一— 梅沢伊勢三 文芸研究 六〇
—国学的古事記観の克服—

神代紀の本書と一書について 野口武司 国学院雑誌 七〇—九
日本書紀の述作過程 西宮一民 文学・語学五〇
出雲神話の生成 三谷栄一 実践女子大学文学部紀要 一二
—記紀と出雲国風土記との関連について—

イザナキ・イザナミ神話に関する二、三の考察 福島秋穂 国文学研究 (早大) 四一
—柿本人麻呂における季節感—
—その歌集との関連—

日本古典文学の巫祝性 渡瀬昌忠 国学院雑誌 七〇—五
源氏物語における教養観 大石新 上代文学 二五
—別府大学紀要 一五—

浮舟・紫上と神婚譚 三苔浩輔 国学院雑誌 七〇—八

自然観照にみえる清少納言の精神講造 須田哲夫 日本文学研究八
—その宮仕え人としての矛盾的性格と展開について—
わが国往生伝史上より見た「今昔物語集」作者の性向 伊藤真徹 仏教大学研究紀要 五一
日本の美の系譜について 谷川徹三 世界 二八六
—細文的原型と弼生的原型—

推古時代の浄土教美術について 石嶋達二 印度学仏教学研究 一八一—一
上代文学に見られる建物 鈴木吉三郎 文学研究(日本文学研究会) 二九
—特に柱のもつ精神的意味—
邪馬壹国 古田武彦 史学雑誌 七八—九
古代日本人の人間意識 平野仁啓 国語と国文学 四六一—〇
飛鳥奈良朝の祥瑞災異思想 東野治之 日本歴史二五九
—中国初期曆法史を参考して—
上代日本の貨幣と貨幣観について 松好貞夫 流通経済論集 二二—一
文徳実録と識緯思想 平秀道 龍谷大学論集 三八九・三九〇
三善清行の辛酉革命論 所功 神道史研究 一七一—
三つの古語についての考察 山本建吉 季刊芸術 三—四
—三—藤原伊周降家における和魂漢才—

延慶本平家物語について―上・下―
―平家物語の原本について統論―

吾妻鏡の曲筆

『愚管抄』の歴史思想

日本における歴史観の一特質
―「正統」をめぐる―

神皇正統後記の研究

足利学校の教育方法の概要

蓮如の教育史的研究―3―
―蓮如における無常観と教育―

浄土教思想研究序説

浄土教における危機思想

醍醐本法然上人伝記について

法然の信仰構造論
―特に信機・信法の基点について―

浄土教に於ける非神話化の問題
―2―

関東浄土宗法度の成立過程につ
いて
―特に念仏三毒滅不滅論を中心に―

浄土宗寺院の開設伝承よりみた
る聖の定着について

赤松俊秀 日本歴史二五七
・二五八
貫達人 金沢文庫研究
一五―七

石田一良 日本思想史学一
佐藤正英 理想 四三一

岩佐正 国文学攷 五〇

斎藤勝雄 宇都宮大学教育
学部紀要
(第一部) 一八

井上義巳 九州大学教育学
部紀要 一四

藤吉慈海 仏教大学大学院
研究紀要 一

香川孝雄 浄土宗学研究三
重細亜大学教養
部紀要 四

梶村昇 印度学仏教学研
究 一七―二

高橋弘次 京都女子大学人
文論叢 一六

石田慶和 日本歴史二五七

宇高良哲 日本歴史二五七

伊藤唯真 人文学論集
(仏教大) 二

真宗学研究序説

―その性格と方法論について―

真宗における往生浄土の構造

親鸞伝絵について
―西本願寺琳阿本を中心として―

法然門下における親鸞の人間観
の特異性

親鸞・覚善・恵信尼と上越後

親鸞の思想の生活

親鸞教学における基礎的理念形
成の問題

悪人正機について
―歎異抄を中心に―

「教行信証」における三心と真
実の關係

親鸞「教行信証」「化身土巻」の主
要問題についての日本学的構想
―批判精神と統一意欲、而して
自主組織の諸機縁と攝取の安らぎ―

宗祖の法体大行説の思想背景

「往生論註」と「教行信証」
―宗祖の五念門観とその成立背景―

親鸞における「歴史」の問題

末法史観と三願転入
―元仁元年に因みて―

「入出二門偈」の研究
―親鸞聖人の五念門観―

信楽峻磨 龍谷大学論集
三八八

藤下洗養 龍谷大学仏教文
化研究所紀要八

宮崎清 龍谷史壇 六二

紅栞英願 印度学仏教学研
究 一八一―一

平野団三 日本仏教 二九

大野達之助 仏教経済研究二

石田充之 印度学仏教学研
究 一八一―一

松永大覚 相愛女子大学・
相愛女子短期大
学研究論集一六

石原斌夫 印度学仏教学研
究 一八一―一

小野正康 //

西信明 真宗研究 一四

普賢晃寿 //

中西智海 印度学仏教学研
究 一七一―二

松原祐善 大谷大学研究年
報 二一

普賢晃寿 龍谷大学論集
三八九・三九〇

親鸞における念仏の意義

上原英正 淑徳大学紀要三

親鸞の「往生」の思想―2―

上田義文 親鸞教学 一四

親鸞聖人の弥陀救済果海観

石田充之 龍谷大学論集 三八九・三九〇

親鸞の現生正定聚について

佐々木徹真 印度学仏教学研究 一八一―一

―来迎思想の呪術性を考慮して―

親鸞における論註視向への経路

山本仏骨 竜谷大学論集 三九一

親鸞の太子鑽仰における基盤

山崎慶輝 真宗研究 一四

覚如上人の教団統制について

藤島達郎 大谷大学宗教文化研究会紀要 二

覚存二師の行信思想

寺倉襄 真宗研究 一四

真宗中興の志願

細川行信 大谷学報 四八―三

他力廻向義の教理史的研究

池本重臣 竜谷大学仏教文化研究所紀要 八

日本中世禅思想の展開

荻須純道 禅学研究 五七

―臨済禅を中心として―

初期曹洞教団における栄西禅師の位置

鏡島元隆 宗学研究 一一

黙照禅より道元禅への転向に関する問題点

高橋全隆 //

―宏智・道元両禅師の坐禅儀を中心として―

道元禅師研究序説

黒丸寛之 北海道駒沢大学研究紀要 三

―仏性観に就いての二考察―

禅宗における經典観について

原田弘道 宗学研究 一一

―道元禅を中心として―

透脱の論理

新本豊三 広島大学文学部紀要 二八一―一

―道元の仏法―

道元の学問観

浅岡美德 中京女子大学紀要 四

「仏性」卷の悉有仏性の研究

竹村仁秀 宗学研究 一一

―正法眼蔵における心の研究の二環として―

道元とヤスパースにおける「解脱」の問題

笠井貞 印度学仏教学研究 一八一―一

―比較哲学的研究―

道元禅における「時」と「行」

大村豊隆 //

道元禅師に於ける「発菩提心」について

神戸信寅 愛知学院大学論叢(禅学研究) 四

道元における存在と当為

遊亀教授 竜谷大学仏教文化研究所紀要 八

―カントとの比論において―

道元禅師と中国天台

池田魯参 宗学研究 一一

叢林生活の基本的性格

木下純一 //

―道元禅師の教えを中心として―

道元禅師の門下と鎌倉

東隆真 金沢文庫研究 一五一―一

大燈禅の性格

平野宗浄 印度学仏教学研究 一八一―一

臨終正念における臨終時

石岡信一 //

―一遍における臨終観を中心として―

時宗の思想史的考察

奥山春雄 日本思想史研究 三

―その時間論を中心として―

藤沢道場創建について

河野憲善 印度学仏教学研究 一八一―一

藤沢山開山吞海上人について

河野憲善 金沢文庫研究 一五〇

明恵の実践仏教について

小林実亥 印度学仏教学研究 一八一―一

「禅宗法語」所載の「明恵上人伝記」の抄録

田中久夫 金沢文庫研究 一五一―一二

明恵上人の名字本尊について	藤島達朗	大谷学報	四八一—
兼好と東寺を中心とする真言宗 関係について	高乗勲	密教	学六
鎌倉仏教における人間観の相剋 —「興福寺奏状」をめぐって—	奈良博順	淑徳大学紀要	三
地藏信仰の一考察 —鎌倉及び茨城を中心として—	藤田稔	日本民俗学会報	六四
鎌倉時代の馬上三物と武士に影 響を与えたと考えられる仏教思 想の研究	藤井英嘉	北海道教育大学 紀要	二〇—一
講について —平等思想(二乗思想)の展開—二—	居村栄	岡山大学教育学 部研究集録	二八
叡尊と両部神道	久保田収	芸林	二〇—四
源頼朝の信仰	鎌田純一	皇学館論叢	二—六
鶴岡八幡宮発展の三階梯と源頼 朝の信仰	江部陽子	神道学	六三
天満天神信仰の発展	久保田収	神道史研究	一七—五・六
菅公の庶民信仰	岡田米夫	〃	〃
わが中世に於ける神判の一考察	小林宏	国学院法学	七—一
詠唱文学と浄土教信仰	伊藤真徹	人文学論集 (仏教大)	一
平家物語と仏教 —研究史の展望と問題提起—	山下宏明	金城国文	一五—二
平家物語の歴史意識	永原慶二	一橋論叢	六一—二

平家物語における「恥」の形成	武久堅	国語と国文学	四六一—三
源平盛衰記と法然説話 —盛衰記の成立をめぐって—	渡辺貞磨	大谷学報	四八一—三
方丈記の精神性	石津純道	高知大学学術研 究報告(人文科 学)	一七一—二
鴨長明と念仏聖	桜井好朗	日本歴史	二五四
徒然草の思想 —特に仏教文学作品としての一試論—	鷺山樹心	禅学研究	五七
『徒然草』における「まことの人」	広神清	日本思想史学	一
絶海中津と明僧との交渉 —文学へのいましめ—	牧田諦亮	禅学研究	五七
連歌論における初心の問題	峯岸義秋	文芸研究	六〇
正徹の歌論について (中世歌論の研究—1—)	白井忠功	立正大学人文科 学研究	所年報六
心敬、その連歌論と無常について	野毛孝彦	札幌大学教養部 札幌大学女子短 期大学部紀要	一
世阿弥の風体文芸論 —「花鏡」を中心に—	亀谷敬三	九州女子大学紀 要	三一—一
「花鏡」の文芸理論 —その詩的発想の中世的構造に就いて—	〃	〃	四—一
遊楽芸風五位と遊楽習道風見 —世阿弥能楽論における禅の影響—	金井清光	国語国文	三八—三
雪舟等揚の芸術と思想—1—	石丸正運	文化史研究	二—一
守護大名と学芸	米原正義	歴史教育	一七一—一
芸道における秘伝—1— —秘伝意識の生成—	菅野洋一	東北工業大学紀 要(A文科系編)	二

芸道における秘伝―2―
秘伝の源流と様相
菅野 洋一
東北工業大学紀要(A文科系編) 五

二世後期民衆の意識状況をめぐ
る二・三の問題
横井 清
日本史研究 一〇四

六角氏式目における所務立法の
考察
勝俣 鎮夫
岐阜大学教育学部研究報告(人文科学) 二

九条兼実と夢
芳賀 幸四郎
日本歴史二六〇

柴田実著「中世庶民信仰の研究」
三田全信著「成立史的法然上人
諸伝の研究」
萩原 竜夫
史林 五一―六
伊藤 唯信
浄土宗学研究三

近 世

戦国軍記序説
―令名の記録―
笹川 祥生
京都府立大学学術報告(人文) 二〇

異本信長記
松沢 智里
文学論藻 四〇

甫庵太閤記の研究
嘉部 嘉隆
別府大学紀要 一五

延宝本靈異記の成立変遷とその
性格―「大日本史」の編纂と関連づけて―
小泉 道
国語国文 三八―一〇

儒教思想と国史研究
安川 実
歴史教育 一七―七

羅山史学の展開
安川 実
歴史教育 一七―二

和魂漢才説の成立とその歴史的
意義
―崎門学における日本的思惟の発展―
小林 健三
神道史研究 一七

山崎闇齋における朱子学闡発の
特質 ―日本朱子学論考―
大槻 信良
千葉大学留学生部研究報告 四

熊沢蕃山の学校論に関する考察
―一・二―
松野 憲二
明星大学研究紀要(人文学部) 一

天道と人道
―蕃山学の場合―
牛尾 春夫
広島大学教育学部紀要(第二部) 一七

太宰府天満宮と貝原益軒
筑紫 豊
神道史研究一七

山鹿素行の日本学と神道の基盤
―中朝事実構成の参考文献を探る―
佐佐木 杜太郎
神道学 六二

新井白石と海外知識
宮崎 道生
歴史教育 一七―二

西洋紀聞の完成過程
宮崎 道生
文経論叢(弘前大) 四―三

新井白石と伴信友
宮崎 道生
日本歴史二六〇

『読史余論』の歴史観
玉懸 博之
日本思想史研究 三

江戸時代中期における天の思想
―新井白石の天観をめぐって―
石毛 忠
日本思想史研究 三

〔頼〕山陽史学の歴史的な性格
石垣 重信
歴史評論二二九

近世前半期における朱子学の経
験的合理主義への変容
了 円
日本女子大学紀要(文学部) 一八

前野良沢から大槻玄沢へ
―徳川時代における合理的思惟の発展―
了 円
二二―二

司馬江漢における窮理思想とそ
の人間観への展開
―徳川時代における合理的思惟の発展―
了 円
二二―三

三浦梅園と条理学
(徳川時代における合理的思惟の発展―六―)

源 了円心 二二一七

山片蟠挑における朱子学と科学の接合
(徳川時代における合理的思惟の発展―七―)

源 了円心 二二一九

山片蟠挑における朱子学と科学の接合
(徳川時代における合理的思惟の発展―八―)

源 了円心 二二一〇

海保青陵と経済合理主義
(徳川時代における合理的思惟の発展―九―)

源 了円心 二二一一

古義学派における朝鮮研究
―ひとつの素描―

中村 完 朝鮮学報 四九

徂徠にみる人間の復権

今中 寛司 日本及日本人 一四七三

服部南郭の「文筌小言」

村山 吉広 中国古典研究 一六

「大東世語」論―2―
―服部南郭における世説新語―

徳田 武 中国古典研究 一六

鎌田柳泓の理学と石門心学

柴田 実 日本歴史二五八

林子平の思想史的研究
―徂徠兵学・蘭学との連関を中心に―

藤原 暹 日本思想史研究 三

人口思想家としての佐藤信淵
―1―

石原 正令 函館大学論及三

中井竹山と「東征稿」

田中 佩刀 明治大学教養論集 五一

懐徳堂学の発展―1―

平 重道 宮城教育大学紀要 三

佐藤一斎の位置
―「言志四録」の構造―

前田 愛 文学 三七一九

増穂残口

浅野 三平 女子大國文 五五・五六

本居宣長と日本の文化伝統
―比較文化的視点からの一考察―

松本 滋 やまと文化四九

上代への論理と心情
―試論・本居宣長―

高橋 正夫 心 二二一二

上代への論理と心情
―試論・本居宣長―二宗―

高橋 正夫 心 二二一三

伴信友の律令研究について

中沢 巷一 法学論叢(京大) 八五一

化政期における秋田藩の国学者
―本居学派の門人を通して―

渡部 綱次郎 秋大史学 一六

飛騨国学の展開
―田中大秀とその門弟―

芳賀 登 歴史研究(大阪教育大) 六

洋学の伝来

杉本 勲 歴史教育 一七一

三田藩の蘭学

中谷 一正 兵庫史学 五一

「平賀」源内秘蔵の蘭書とエレキテルについて

城 福 勇 香川大学教育学部研究報告(第一部) 二六

鎖国時代にもたらされた海外情報
「オランダ風説書」所載のロシア関係記事について

片桐 一男 日本歴史二四九

幕末の横浜に設立された仏蘭西語学伝習所の成立と背景
―わが国に於ける仏語(教育)史―

木崎 良平 鹿児島大学史録 一

幕末近代思想の系譜―1―

西 堀 昭 千葉商大論叢 一二(A)

「大塩平八郎」論
―典故と方法―

塚谷 晃弘 国学院経済学 一七一二

小楠学の儒教的思想形態について

小泉 浩一郎 国文学言語と文芸 一一一

象山と小楠

—西洋の受容と日本—

森田 康之助

国学院雑誌 七〇—五

講孟割記の精神

明治以前の社会教育

近藤 啓吾

芸林 二〇—二

戦国地方武士〔上井覚兼〕の信仰

—とくに晩年を中心として—

玉山 成元

印度学仏教学研究 一八一—

天保期のある少年と少女〔橋守部の子女〕の教養形成過程の研究

高井 浩

群馬大学教育学部紀要(人文社会科学編) 一八

近世末期念仏講成立の一考察

—特に徳本の布教について—

田中 祥雄

印度学仏教学研究 一八一—

檀林教育の成立とその発展について

中井 良宏

—「浄土宗」寺院教育の「形態」—

薩藩の真宗禁制と本願寺門徒

—龍巖近とその思想—

星野 元負

龍谷史壇 六〇

近世社会教育運動の四民平等論系譜

大槻 宏樹

—これが国民教育思想の「源流」—

日本のカテキズモー

—幕末におけるキリスト教再伝来について—

久保田 収

皇学館大学紀要 七

新発田藩の教育

—第八代藩主溝口直養の教学策を中心とした考察—

山下 武

早稲田大学教育学部学術研究(人文科学) 一六

浦上切支丹重次郎の改心と改心戻し

—古田織部とキリシタン—

遠矢 徹志

史苑 二九—三

新発田藩における庶民教育政策

—教学精励者の表彰と礼讃制度の発達を中心として—

山下 武

早稲田大学教育学部学術研究(人文科学) 一七

日欧交渉史研究文献目録

—南欧・キリシタン編補遺—

塚田 信寿

日本歴史二五一

経営者・師匠の性格からみた寺子屋経営に関する一考察

—特に農村地域を中心とする—

利根 啓三郎

日本歴史二五九

〔加賀藩〕村松家訓と年中行事

曾原 吉久

日本歴史二五六

近世三井家同苗子弟の教育

—「家業入見習」課程を中心に—

入江 宏

北海道教育大学紀要(第一部) 一九—二

白隠伝補訂

—蕪村の浄土信仰—

辻 達也

日本歴史二五四

家法にあらわれた近世町人の教育観

入江 宏

北海道教育大学紀要(第一部) 一九—一

鈴木正三の念仏禅

—富田大鳳小論—

藤吉 慈海

禅学研究 五七

皇学館論叢

—二—

荒川 久寿男

皇学館論叢 二—三

禅と連歌俳諧——

山本平一郎

愛知学院大学論叢(禅学研究)三

利休における「わび」——「わび」の実存的意義——

草薙正夫

文学三七—一〇

大久保彦左衛門忠教自筆の釈教和歌の釈義

齋木一馬

日本歴史二五三

西鶴の人生観と教戒

服部嘉香

国文学研究 四

近松における「義理と情」——「心中天の網島」を中心として——

鳥居フミ子

実践文学 三八

近松の救いの思想——「心中天の網島」を中心に——

千葉篤

文学研究(日本文学研究会) 三〇

近松世話物心中考——近松の心中観(近松世話物研究—二—)

尾崎芳子

女子大國文五二

近世文芸の宗教的史観——四——芭蕉の美学——執中の法——

村田昇

国文学研究(梅光女学院大) 四

芭蕉と浄土教

鏡本光信

印度学仏教学研究 一七—二

芭蕉と「老子」

野々村勝英

国文学言語と文芸 一一—一

羈旅・草庵の文学としての芭蕉俳諧——芭蕉文学と禅——

山本平一郎

愛知学院大学論叢(一般教育研究) 一六—四

不易流行の説

栗山理一

成城国文学論集 一

蕪村の「離俗論」試論——思想的背景からの一考察——

弥吉沙恵

国文学言語と文芸 一一—一

禅詩人良寛——草庵隠棲の文学——

山本平一郎

愛知学院大学論叢(禅学研究) 四

秋成の綾足批判と「ますらを物語」——二——

東喜望

文学研究(日本文学研究会) 三〇

化政期における京洛文化人社会——頼山陽の笑社・白雪社を中心として——

芳賀登

史潮 一〇六

化政期地方文化に関する二・三の問題——化政文化論と関連させて——

芳賀登

日本歴史二四九

「亜墨竹枝」雑話——天保の文人たちとアメリカとの一つの出会い——

神田孝夫

比較文学研究 一六

平賀源内における文芸と絵画と

城福勇

香川大学教育学部研究報告(第一部) 二五

譜代意識と絶対奉仕の精神

奥野中彦

歴史教育 一七—三

江戸時代における攘夷思想とその発生の社会的事情

有吉正勝

九州女子大学紀要 三一—一

幕末における政治思想の一論稿

松井喜代司

千葉敬愛経済大学研究論集 一

秀吉の朝鮮役に従軍した一日本僧「慶念」の戦争観について

内藤雋輔

ノートルダム清心女子大学紀要(英文学科・一般教養) 一一—一

慶応二年都市窮民の意識と行動

高島一郎

歴史教育 一七—三

「世直し」とミロク信仰——日本における「世直し」の民俗的意味——

宮田登

民族学研究 三三—一

思想体系と「ことわざ」——江戸幕藩体制下における商品経済発展期の思想を中心に——

玉津徳太郎

日本大学文理学部研究年報 一七

H・チースリク編集「芸備キリシタン史料」

松田毅一

ビブリア 四—

高尾一彦「近世の庶民文化」

広末保

文学 三七—八

ドナルド・キーン著・芳賀徹訳「日本人の西洋発見」

片山勝

日本歴史 二五八

久保田収著「近世史学史論考」 稲川誠一 芸林 二〇—二

日本史学の道標 小林健三 皇学館論叢 二—一

山口宗之著「幕末政治思想史研究」 遠山茂樹 日本歴史二五八

田原嗣郎「本居宣長」 村松定孝 文学 三七—一

三木正太郎「平田篤胤の研究」 谷省吾 芸林 二〇—五

三木正太郎「平田篤胤の研究」 小林健三 神道史研究 一七—四

—古道学の師範—

近代

明治の思想 野村喬 国文学解釈と鑑賞 三四—一

明治思想の課題 森田康之助 神道学 六三

近代化の問題と神道 // 六—

近代地方文化史の二・三の問題 芳賀登 地方史研究 一九—一

—政策と要求を中心として—

日本人の外化主義と国粹主義 村上陽一郎 ソフィア 一八—一

近代日本の哲学の回顧と展望 鈴木享 哲学(日本哲学会) 一八

近代日本の哲学と仏教 湯浅泰雄 // 一九

明治国学の一側面 西川順土 皇学館大学紀要 七

明治維新と江戸儒学 相良亨 斯文 五六

日本の哲学用語 安井惣二郎 滋賀大学教育学部紀要 一六

—その起源と問題—

西周による統一科学の試み 小泉仰 哲学(三田哲学会) 五四

福沢諭吉の人間観と宗教観 室田泰一 岐阜大学教育学部研究報告一七

福沢諭吉のコミュニケーション論(序説) 茅根英良 新聞学評論一八

明治初期知識人森有礼の評価をめぐって 織田陽二 上智史学 一四

植木枝盛の「言論自由論」分析 ノート 香内三郎 東京大学新聞研究部紀要 一八

「伏敵編」成立事情 川添昭二 日本歴史二六〇

—明治中期における—史家の史書編纂思想—

井上毅の歴史観 木野主計 神道学 六二

小野梓とベンサム 山下重一 国学院法学 六一—三

高山樗牛における観念派と印象派 広島一雄 文学論藻 四一

明治の終焉乃木將軍の殉死 生松敬三 国文学解釈と鑑賞 三四—一

—その評価の変遷—

「善の研究」と神 アンセルモ・マタイス 哲学(日本哲学会) 一八

西田幾太郎のキルケゴール理解 小川圭治 比較文化 一五

田中・西田哲学論争「再録」 早稲田大学史記要 二—三

三木清の「基礎経験」について 湯浅泰雄 山梨大学教育学部研究報告一九

和辻哲郎の思想 山本嘉太郎 北海道教育大学紀要 一九—二

明治期愛国心の倫理的批判 戸頃重基 金沢大学法文学部紀要 一六

明治期社会主義者の道徳思想

山田 洸

宮城教育大学紀要 三

わが国近代教育思想の源流

安藤 五郎

愛知教育大学研究報告 一八

日本の近代化と明治の教育

中島 万朶

京都工芸繊維大学学術報告 一五—二

日本近代化の過程におけるキリスト教学校教育の問題

工藤 英一

東京教育大学教育学部紀要 一五

近代日本教育史における教育実践記録としての意義

近代日本の家庭教育に関する一考察(1)

小林 輝行

横浜国立大学教育紀要 八

「士族の「家」意識とくに立身興家思想との関連を中心として」

明治時代の道徳教育教材にあらわれたる宗教思想

小池 長元

東京学芸大学紀要 二〇

明治初期における6人の米人科
学教師たち

渡辺 正雄

科学史研究 九二

明治前期(一八七二—一九〇三年)における歴史教育方法の研究

吉田 太郎

横浜国立大学教育紀要 八

学制制定期における徳教思想

川瀬 八洲夫

東京家政大学研究紀要 九

「福沢塾」より「慶応義塾」への発展過程とそこに展開された教育

影山 昇

愛知大学教育学部紀要 一五—一

民権私塾の軌跡

鹿野 政直

思想 五三六

大江義塾のことなど

大江 志乃夫

日本歴史二五〇

清沢満之とその教育思想

久木 幸男

横浜国立大学教育紀要 八

明治社会主義における教育論

橋木 敏雄

東京学芸大学紀要 二一

都市化現象と宗教

森岡 清美

大谷大学宗教化学研究會紀要 二

日本プロテスタントイイズムの問題

大木 英夫

世紀 二二七

明治初期のプロテスタント伝道

山口 光朔

桃山学院大学キリスト教論集 一

明治期伝道史関係欧文文献目録

林 竹二

東北大学教育学部研究年報 一六

森有礼研究—2—

藤代 泰三

キリスト教社会問題研究 一四・一五

本多庸一とウエスレー

三浦 泰生

日本文学(日本文学協会) 一八一—二

内村鑑三の文体と思想

松沢 弘陽

北大法学論集 一九—四

内村鑑三の歴史意識—3—

立石 元宏

日本文芸研究 二一—一・二

芥川文芸におけるキリスト教の受容

鳴田 啓一郎

キリスト教社会問題研究 一四・一五

発展する全体と社会的基督教

村田 安穂

早稲田大学教育学部学術研究 一七

明治初年における埼玉県の廃仏毀釈

村田 安穂

「武蔵国郡村誌」の統計と予察

- 福沢諭吉とピューリタン経済倫理 天川 潤次郎 関西学院大学論叢 一五
- 田口卯吉の初期の経済思想 溝川 喜一 人文(京大教養部) 一五
- 近(世)代日本の哲学に対する新しい視座 市井 三郎 哲学(日本哲学会) 一八
- 「哲学」の批判と構想 中村 雄二郎 〃 一九
—西欧と日本の思想状況 思想伝統の対比において—
- 近代化の視点 伊東 俊太郎 教養学科紀要二
—M. B. ジャンセン編「日本における近代化の問題」によせて—
- Marius B. Jansen; Sakamoto Ryoma and the Meiji Restoration, 1961 内藤 俊彦 法学(東北大) 三三—三
- 牧野吉五郎「明治期啓蒙教育の研究」 安川 寿之輔 教育学研究 三六—三
- 林竹二「森有礼研究第二」について 高木 八尺 日本学士院紀要 二七(1)
- 辻橋三郎「近代文学者とキリスト教思想」 佐藤 泰正 日本近代文学 一一

発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳燭をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石 田 一 良

日本思想史研究 第五号

昭和四十六年五月三十一日 印刷

昭和四十六年五月三十一日 発行

編集代表者 石 田 一 良

仙台市原町四丁目九ノ十四

印刷所 合名 共同印刷所

仙台市片平二丁目

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室

